



2022年2月9日

各 位

会 社 名 武蔵精密工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 大塚 浩 史
(コード番号 7220 東証・名証第一部)
問合せ先 執行役員 経理部長 高橋 森 一
(TEL. 0532-25-8111)

(訂正)「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」
の一部訂正に関するお知らせ

2022年2月8日15時20分に公表いたしました「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」に一部訂正すべき事項がありましたので、下記の通りお知らせいたします。

なお、訂正箇所には下線を付しております。

記

1. 訂正理由

ヘッダー情報に誤りがありましたので、これを訂正します。

2. 訂正内容

「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」1ページから9ページのヘッダー

(訂正前)

武蔵精密工業(株) (7220) 2021年3月期 第3四半期決算短信

(訂正後)

武蔵精密工業(株) (7220) 2022年3月期 第3四半期決算短信

以上

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報)	8
(収益認識関係)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年12月31日)における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に収束が見られず、厳しい状況が継続いたしました。また、自動車業界では完成車メーカーを中心に、半導体不足の影響による大幅な生産変動が見られたほか、鋼材価格や物流コストをはじめとする世界的なインフレ傾向が顕在化してきております。

一方、当社グループにおきましては、電動化による変化をチャンスと捉え、コア事業であるモビリティ事業の強化に加え、継続的な改善活動やDX(デジタルトランスフォーメーション)によるコスト削減や生産性の向上に努めております。さらに、社会課題の解決に寄与する新規事業の創出に積極的に取り組んでおります。当期10月には、当社の所在する東三河地域でスタートアップ支援に関する様々な活動を行っている企業・大学・行政機関などで構成される「東三河スタートアップ推進協議会」に参画いたしました。また、北米やアフリカなど世界各地において、スタートアップ企業との協業によるオープンイノベーションを推進しております。今後も、社会の多様なステークホルダーと連携しつつ、テクノロジーへの情熱とイノベーションを生み出す知恵をあわせて、人と環境が調和した豊かな地球社会の実現に向けて貢献してまいります。

このような状況の中、当連結会計年度においては、足元の生産変動に対し、グローバルで変動費、固定費の管理に取り組むとともに、当第4四半期以降の生産回復も視野に入れたオペレーションの最適化に引き続き注力してまいりました。

この結果、第3四半期連結累計期間における連結売上高は172,392百万円(前年同期比20.8%増)の増収となりました。利益面では、連結営業利益は3,147百万円(同36.3%増)の増益となりました。連結経常利益は3,285百万円(同33.0%増)の増益となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,706百万円(同32.9%減)の減益となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

(日本)

売上高は25,114百万円(前年同期比12.5%増)、セグメント利益は1,128百万円(前年同期は493百万円の損失)となりました。

(米州)

売上高は36,609百万円(前年同期比11.1%増)、セグメント損失は194百万円(前年同期は967百万円の利益)となりました。

(アジア)

売上高は39,570百万円(前年同期比37.9%増)、セグメント利益は2,778百万円(同5,503.2%増)となりました。

(中国)

売上高は23,836百万円(同3.1%増)、セグメント利益は2,307百万円(同36.2%減)となりました。

(欧州)

売上高は47,260百万円(同32.6%増)、セグメント損失は2,837百万円(前年同期は2,065百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前期末に比べて19,091百万円増加し、245,158百万円となりました。

流動資産は、前期末に比べて8,391百万円増加し、110,445百万円となりました。主な要因は、原材料及び貯蔵品の増加によるものであります。

固定資産は、前期末に比べて10,699百万円増加し、134,713百万円となりました。主な要因は、投資有価証券の増加によるものであります。

負債は、前期末に比べて12,770百万円増加し、142,922百万円となりました。主な要因は、長期借入金の増加によるものであります。

非支配株主持分を含めた純資産は、前期末に比べて6,321百万円増加し、102,236百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年11月4日「2022年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,143	25,641
受取手形及び売掛金	33,776	31,072
商品及び製品	8,309	10,751
仕掛品	8,077	9,111
原材料及び貯蔵品	21,417	26,720
その他	6,430	7,227
貸倒引当金	△102	△80
流動資産合計	102,053	110,445
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	47,213	48,946
減価償却累計額	△24,197	△25,739
減損損失累計額	△293	△308
建物及び構築物(純額)	22,722	22,898
機械装置及び運搬具	223,359	234,200
減価償却累計額	△168,586	△179,141
減損損失累計額	△527	△656
機械装置及び運搬具(純額)	54,245	54,403
工具、器具及び備品	13,057	13,895
減価償却累計額	△9,315	△10,198
減損損失累計額	△15	△16
工具、器具及び備品(純額)	3,726	3,680
土地	7,488	7,509
建設仮勘定	14,065	16,363
有形固定資産合計	102,249	104,855
無形固定資産		
のれん	694	486
顧客関連資産	2,807	2,526
ソフトウェア	1,318	1,288
ソフトウェア仮勘定	36	7
その他	1,559	1,201
無形固定資産合計	6,416	5,509
投資その他の資産		
投資有価証券	9,749	16,657
出資金	777	945
長期貸付金	65	152
繰延税金資産	2,243	2,947
その他	2,556	3,700
貸倒引当金	△43	△56
投資その他の資産合計	15,348	24,348
固定資産合計	124,013	134,713
資産合計	226,066	245,158

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,843	17,578
短期借入金	38,932	37,438
1年内返済予定の長期借入金	11,410	12,042
未払金	3,967	4,134
未払費用	7,614	6,249
未払法人税等	1,954	1,224
賞与引当金	2,054	1,367
役員賞与引当金	23	18
製品補償引当金	235	204
その他	5,826	6,358
流動負債合計	89,862	86,616
固定負債		
長期借入金	27,151	42,550
繰延税金負債	2,653	4,205
退職給付に係る負債	6,695	6,522
その他	3,788	3,027
固定負債合計	40,289	56,305
負債合計	130,152	142,922
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,394	5,427
資本剰余金	3,093	3,126
利益剰余金	85,992	84,763
自己株式	△8	△8
株主資本合計	94,472	93,308
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,605	6,586
為替換算調整勘定	△11,581	△8,080
退職給付に係る調整累計額	△354	△130
その他の包括利益累計額合計	△9,330	△1,624
非支配株主持分	10,773	10,552
純資産合計	95,914	102,236
負債純資産合計	226,066	245,158

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	142,740	172,392
売上原価	124,652	152,063
売上総利益	18,088	20,328
販売費及び一般管理費	15,779	17,181
営業利益	2,308	3,147
営業外収益		
受取利息	242	264
受取配当金	109	190
為替差益	—	110
助成金収入	458	—
その他	216	283
営業外収益合計	1,026	849
営業外費用		
支払利息	490	444
為替差損	176	—
投資有価証券評価損	—	101
その他	198	165
営業外費用合計	865	711
経常利益	2,469	3,285
特別利益		
固定資産売却益	17	38
負ののれん発生益	877	—
債務取崩益	551	—
特別利益合計	1,445	38
特別損失		
固定資産売却損	2	8
固定資産除却損	35	159
減損損失	—	108
災害による損失	83	—
その他	—	5
特別損失合計	121	282
税金等調整前四半期純利益	3,793	3,041
法人税等	1,754	1,426
四半期純利益	2,039	1,614
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△504	△91
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,544	1,706

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	2,039	1,614
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	836	3,980
為替換算調整勘定	3,111	3,661
退職給付に係る調整額	△136	190
その他の包括利益合計	3,811	7,832
四半期包括利益	5,850	9,447
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,876	9,412
非支配株主に係る四半期包括利益	△25	34

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用について、当社及び国内連結子会社は、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、顧客から製造のために使用する原材料等の支給を受け、加工を行ったうえで売り戻す取引（有償受給取引）については、従来は原材料等の価格を含めた総額で収益を認識しておりましたが、売り戻し義務がある一部の原材料等の仕入価格を除いた純額で収益を認識することといたしました。

また、取引先に対し原材料等を支給し、外注加工を受けた後に買い戻す取引（有償支給取引）については、従来は支給時点で棚卸資産の消滅を認識しておりましたが、当該取引において買い戻す義務を負っていることから、第3四半期末時点において、取引先で保有する当該原材料等について棚卸資産として、債務を流動負債として認識いたしました。

また、当社及び当社の国内連結子会社において、輸出取引における収益認識は、主に船積時に収益を認識しておりましたが、インボイスに記載のインコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転した時に、収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高が170百万円、売上原価が170百万円減少しており、棚卸資産が64百万円、流動負債が64百万円増加しております。なお、利益剰余金の当期首残高への影響は軽微であります。また、「四半期連結財務諸表に関する会計基準（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	米州	アジア	中国	欧州	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
売上高								
外部顧客への売上高	22,327	32,953	28,693	23,130	35,634	142,740	—	142,740
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,023	105	1,161	2,338	1,100	19,728	△19,728	—
計	37,350	33,059	29,854	25,469	36,735	162,468	△19,728	142,740
セグメント利益 又は損失(△)	△493	967	49	3,616	△2,065	2,074	233	2,308

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額233百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「日本」セグメントにおいて、JMエナジー株式会社(現 武蔵エナジーソリューションズ株式会社)の発行済株式の80%を取得し、同社を連結子会社としました。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては877百万円であります。なお、負ののれんの金額は第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に確定しております。なお、負ののれん発生益の金額に修正は生じておりません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	米州	アジア	中国	欧州	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
売上高								
外部顧客への売上高	25,114	36,609	39,570	23,836	47,260	172,392	—	172,392
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19,374	141	1,474	1,828	1,624	24,443	△24,443	—
計	44,488	36,750	41,045	25,665	48,885	196,835	△24,443	172,392
セグメント利益 又は損失(△)	1,128	△194	2,778	2,307	△2,837	3,182	△34	3,147

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△34百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する情報

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

(単位:百万円)

	日本	米州	アジア	中国	欧州	合計
本田技研工業株式会社 及びその関係会社	15,107	26,536	29,198	15,084	1	85,928
その他グローバルカスタマー	10,007	10,072	10,372	8,752	47,259	86,463
外部顧客への売上高	25,114	36,609	39,570	23,836	47,260	172,392

(重要な後発事象)

該当事項はありません。